

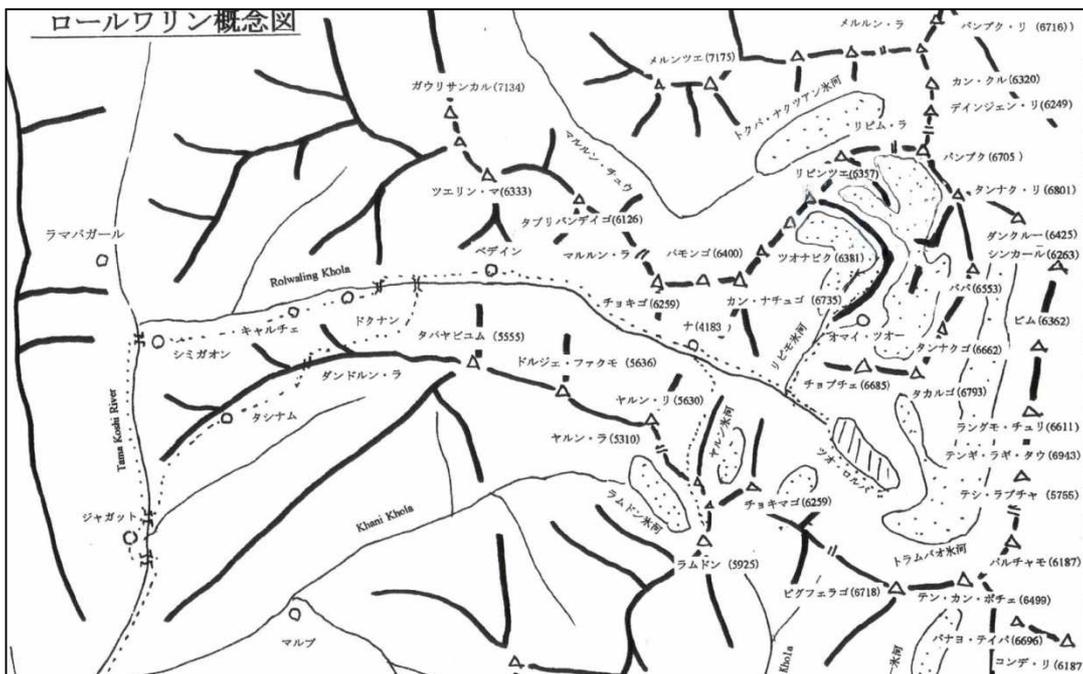
Rolwaling Romdung (5,930m)

2014年12月20日～2015年1月12日

田中 規雄

12月20日 8時02分桑園発で新千歳空港へ。早め早めの行動が大人というもの。ところが、新千歳空港国際線ターミナルは長蛇の列である。国際線の便数は少ないため、この列は全てバンコクへの搭乗者であることが分かる。客の90%はタイ人かと。ほぼ全員、2時間前から並んでいたとみた。私の後方には10人しかおらぬ。そして、1時間以上待つ。然るに、次回からは10時過ぎの空港着でも問題なし。10時55分予定通りバンコクへフライト。空港からホテルまで150パーツであり、エライこと安い。ホテル近くの屋台で焼き飯とビール。このままバンコクで沈殿したい気分。

12月21日 バンコクの朝は暑い。これから極寒のカトマンズへ移動かと思うと滅入る。名物の渋滞はなく8時に空港着。搭乗手続きで30分、イミグレで20分、X線検査で30分待たされる。ここは時間に余裕が必要。定刻カトマンズ着。ビザは現地で取得する主義であるが、去年は入国に1時間30分要した。今回は日本でビザを取得しておいたので、わずか10分でスルー。とても偉くなった気分である。空港からタクシーで移動。コスモ・トレックのあるラジンパットまで1000Rsもした。コスモ・トレックで雑用を済ましタメルへ移動。ホテルは予約入れずとも空室だらけだ。いつものドルフィン・ゲストハウス。少々高い料金(2人20\$)とは思うが、火傷するようなシャワーがある。



12月22日 日本では考えられないほどよく寝る。9時間ほど寝た。朝早く起きても、防犯のため、玄関に巨大な南京錠がかけられ外に出られぬ。「グッド・モーニング!!!」を連呼してカギを開けてもらうのが大変煩わしいのだった。本日はダンライン200m、スノーバー10本、バスのチケットを購入するだけ。夜、ネパール女性初の7大陸登頂セレモニーを見学。ゲストの話が長いのは、どこの国でも政治家である。その後、大津旦那(コスモ・トレック)と「こてつ」に行き、御馳走様であり、「こてつ」の社長は大変「や〇ざ」っぽい(-_-;)なのであった。

12月23日 6時30分オールド・バス・パークでガイドのツルーと待ち合わせ。公衆トイレは5Rsだがあまり綺麗とは言えぬ。これから長時間バスに乗車するので「腹を壊す訳にはいかぬ!」と念じながら乗車。カトマンズからチャリコットまで5時間。ここからジャガットまでは大変道が悪く、ノロノロ運転で4時間要す。ポーターの「おはじき」もどきのゲームを見ながらククリ・ラム飲む。

12月24日 快食・快眠・快便であるが「ぢ」の予防に座薬挿入。その後、歩き始めてすぐ便意が来て、意味ないがな。水力発電工事(中国パワー)で道路はトラックが行き交い、大変白ける。チャチャットまで2時間歩いたが、ここまでバスがあったじゃねーか。ネパールの道路事情は年々変わる。ここから山道へ。一気に600m高度を上げる。この地域はポーターを生業とする人がいないので、カトマンズからポーター7人(タマン=1番強い、ビスル=宴会部長、パサン=鏡でオシャレ、シャム=パサンの弟、ソニン=でかい、パサン=ツルー妹の旦那、ビン=寡黙)を雇用して行動を伴にしている。実は10人必要とのこと。年々ポーターの雇用が難しくなっているようだ。公共工事等で日当が高騰している影響。ポーターの3人は屈強で、次の宿泊地のシミガオンまで早々に着いたが、残りの4人はかなり遅れ、先着の3人が助けに行った。冬虫夏草入りのロキシーを飲むが、キツイ。歯磨きもせず撃沈。

12月25日 本日はレスト。ポーターがストライキしたため(笑)。ガイドのツルーが地元の若者に「アルバイト・ポーターしないか?」の勧誘(成功)。暇なので洗濯。ネパールの石鹸は、少

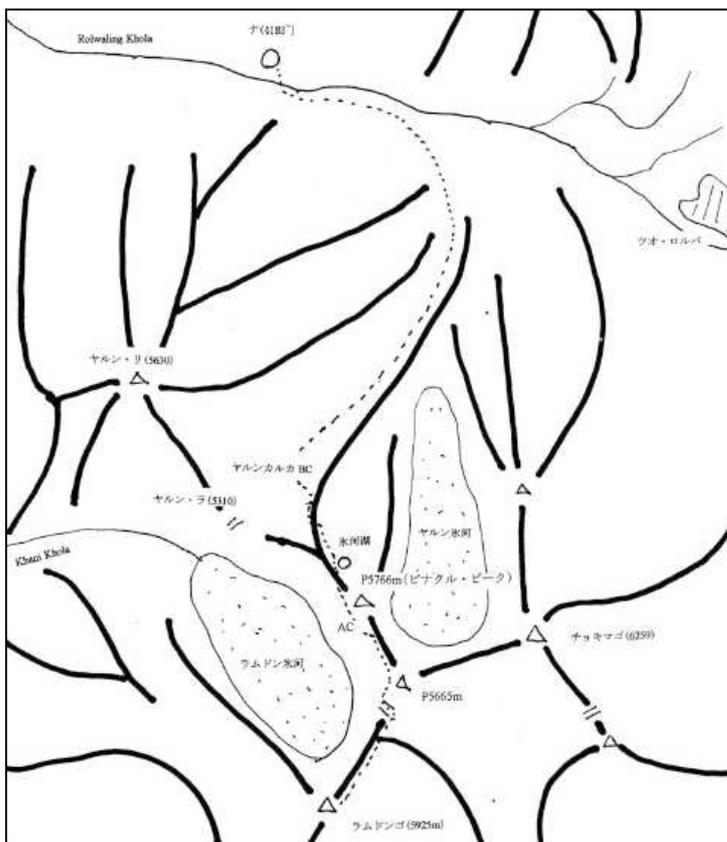


しの量で「フローラルの香り」。日本でも汗臭くなったTシャツなど、ネパールの石鹸を使うと良いよ。ポーターの1人「ソニン」に「ジャイアン」とあだ名をつける。読者の想像通りの風貌。

12月26日 ネパーリー・タイム。7時過ぎても朝食出来ず、イスクス（瓜）で空腹を紛らわす。スルムチェで昼食。ガウリンシャンカールの眺望が良い。水が凍り始める。ドガンという中途半端な村で宿泊するが、その訳はここでアルバイト・ポーターを2人雇用するから。そのお礼も兼ねているのであった。そんな訳で宿泊施設としては相応しくなく、ガイド、ポーターはキッチン部屋等に分散して寝たようだ。寒いし、やる事もないので19時30分就寝。

12月27日 本日、途中にバツティ（宿兼食堂）なし。りんごとビスケット、ゆで卵の弁当持参。本日の宿泊地のベディンまであと1時間という距離まで来て、大休憩開始。まさにネパーリー・タイム。村の婆さんからジャガイモを買って茹で始める。ビスケットでは力が出ないのか、ポーター達のご機嫌取りをしているようだ。日中は暖か、昼寝などして過ごす。ベディンは日が当たらない。非常に寒々しい。カメラのSDカード不調で今までの撮影がパー。バツタものSDカードはダメだな（帰国後1万円でデータ修復した）。

12月28日 夜中に座薬挿入などしていたが、11時間も寝ていた。ナーまで移動。



昨日に宿泊したバツティと同じオーナーのバツティに宿泊。ベディンからバツティのカギを持参してナーに入る。このエリア、冬期は観光客が来ないので、基本クローズ。事前に頼まないとバツティに宿泊出来ない。12万5千分の1の地図と地形が一致しない。チェキゴ峰の記載がなく、ツルーから「この地図ダメ」の指摘。

12月29日 ナーからBCまで荷揚げ試みるが残雪が多く、遅々として進まない。私はスポルティバ社「8000」というダブルシューズを履いてロボットの如く歩くが、



ポーターはスニーカーの下にビニールを巻きつけて颯爽とラッセルである。というか、スニーカーしかないのだが、それで上まで行くつもりか？ BCまで、まだ3分の1だが、本日の敗退濃厚。ラムドゥン峠の突破は不可能なのでは？・・・が頭によぎる。しかし、この眺望は良い。我々だけが眺望満喫。コンタ 4500mに荷をデポ。カ

ラス避けのため、荷はプラパールに入れる。

12月30日 レスト。バツティの娘は、明日下山する由。物置を借りて、ここがキッチンと食堂となる。明日からテント泊。アイスクライミングの道具を担いだネパール人が二人来る。登山学校の生徒だそうだ。国際ガイドを目指すべく、ここで訓練と試験を受けるとのこと。トイレはバツティのものを借用するが計13人が使用し、しかも、凍結しているものだけはら、この世のものとは思えない風情を醸し出し始める。事実上はここがBC扱い。

12月31日 再度HC（本来のBC）まで荷揚げ。登れば登るほどラッセル。何とかHCまで着くが、ラムドゥン峠は雪の中であり、ここで完全にラムドゥン峰の登頂は諦める。ここからヤルンリー峰に目標変更し、荷をデポし下山。

1月1日 本日はレストの予定であったが、曇天で事実上動けぬ。顔がむくみ、あまり体調も良くない。雨が降りそうだが、過去4000m以上で雨天の経験なく、フライは持参していない。心配していたが、降雪となって少し安心。しかし、結構な降雪であり、これではHCにデポした荷が回収出来なくなる可能性が出てきた。



1月2日 夜からの雪やまず。本日の登山活動中止。朝の天気予報（FMラジオ）は5日まで変化ないとのこと。ここで登山活動を中止する決定をした。荷を回収しに行く。ご苦労様なのであった。追記：初夢は以下→シャブ中毒になって、



エレベーターの中、もう1人の自分に首を絞められ、警察に捕まる、しかも密告したのはゲイの彼氏！・・・フロイト的に分析お願いします。

1月3日 高所靴履いて、ドガンまで下山。下山した途端、大雨。ラッキー！と言っておこう。人生はポジティブで行こう。3000m以上の禁酒を解禁。小川が増水し、何となく、

北アルプスの小屋で台風を避けている雰囲気。こんな日もあって良いか。

1月4日 途中、大粒のヒョウが降ってくる。ポーターにとって災難だ。シミガオン13時過ぎ着。タト（暖かい）ロキシー待ちながら日記書く。コックのビネスから「ヤギ買って良いか？ 安いよ、安いよ」のやたら安い事を強調した提案あり。4000Rsは贅沢ではあるが、許可したらすっ飛んで行って、「ウヒョウー！ヤギ！ヤギ！」の様で帰ってきた。写真はバッチィのペット。これを食べてはいない。夜の宴会は続く。

1月5日 午前中は濡れたものを干す作業。私はカトマンズでやるからいいや、と放置していたら、ツルーから「登山靴がカビるから、今やりなさい」と48歳にして、今さら基本的な事で怒られる。午後、チェチェット（バス停）まで下山。

1月6日 カトマンズまでバスに揺られる。途中、ビサル（宴会部長）がバスに同乗していたお母さん（他人）に使い走り（お菓子）をさせられていて、笑う。カトマンズまで11時間30分要する。

1月7日 ビネス（コック）が経営している食堂に行く。ご馳走様であった。

1月8日～10日 暇なので、デュルケル方面にトレッキングに行くが、予想以上に良かった。夜、バビシェの佐藤氏等と食事（ギャコック）。

1月11日 カトマンズ→バンコク

1月12日 バンコク→札幌

* 地図は「2008年京都ロールワリン遠征隊」より転載